

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同  
出生・発達分科会（第26期・第17回）  
議事要旨**

1. 日 時 令和7年4月10日（木）18:30～20:10

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、藤井知行（以上、会員）

神尾陽子、島 蘭 進、船曳康子、水口 雅、古庄知己、武藤香織、石崎優子、笹月桃子、米村滋人、水野紀子、柘植あづみ（以上、連携会員）

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

（1）意思の表出の検討の仕方と今後のスケジュールについて

今期のこの分科会からの意思の表出について、この分科会から提出した申出書に対して科学的助言等対応委員会から返却された助言書、調査結果を委員長の高橋が資料として提示しながら説明を行った。その後、各委員が今後の「見解」作成について思うところを述べた。「見解」案作成過程で多くの困難が予想されるものの、助言書の判断も「見解」に相当するとのことであり、この助言を参考にして、「見解」をまとめることに特に異論はなかった。

「見解」案の提出可能な時期として7月末が最も早いと考えられたが、案作成の現状からもっと時間がかかる可能性が高く、4月に持たれる日本学術会議総会での説明を参考にして、スケジュールを再考することとした。また「最善の利益基準」「代理意思決定の考え方」については特化した会議を持つことが提案され、その方向で検討することとなった。11月の日本生命倫理学会、日本新生児成育医学会のシンポジウムでは未承認の「見解」を提案することになる可能性が高いと判断した。発出がいずれの時期になるにしても、スケジュールよりも内容を十分に検討することの方が重要であることを確認し合った。今後、高橋が骨子案をフォーマットに落とししたものを委員に配布し、約1か月間、委員に意見を求めることとした。

（2）次回日程

次回の会議では、収集された意見を元に「見解」の第一次案を検討することとした。5月下旬頃の開催を予定し、今後速やかに日程調整を行うこととした。

以上